

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500233		
法人名	社会福祉法人 ときわ会		
事業所名	グループホームひなもり	ユニット名	星町
所在地	宮崎県小林市堤4380番地		
自己評価作成日	平成26年10月31日	評価結果市町村受理日	平成27年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kihontrue&amp;JieyouCode=4570500233-00&amp;PrefCode=45&amp;VersionCode=022">http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kihontrue&amp;JieyouCode=4570500233-00&amp;PrefCode=45&amp;VersionCode=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			星町 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念について理解し、理念を基本とした支援に取り組んでいる。ホールの見えやすい場所に理念を掲げ、いつでも確認、意識できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の温泉に外食に行ったり、スーパーへ買い物に行ったり、近くの小学生の訪問で交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々が、認知症や介護についての、問い合わせや相談などに対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者や職員の状況やサービス内容の報告、自己評価の報告を行い、その場で出された意見や要望を、月1回の定例会議にて報告、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で、事業所の利用者状況や活動報告を行い、理解していただいている。随時、問題解決に向け、相談や協力を得られるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動パターンを把握し、安全を確保しつつ、施錠しない自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、定例会議等で学び、当然のこととして理解している。職員の言葉遣いや接遇についても、常に意識的に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	星町	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		安心サポートを利用し、金銭管理を行っている。制度に関して理解している職員は少ないが今後制度を学ぶ機会を設け、知識と理解をし、活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		契約時、不明点を確認し契約書、重要事項の説明を行い、理解納得してもらった上で署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		運営推進会議やサービス担当者会議、年2回の家族会、面会時など日々の報告を行い、家族の希望や要望を聞くようになっている。アンケートを年一回実施し、意見を反映している。スマイルボックスの設置、運営推進会議議事録も自由に閲覧できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		朝礼や月1回の定例会で職員同士の意見を業務に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		職員の休みの希望を取り入れている。また職員の体調を考え、無理せず働けるように勤務調整を行っている。年1回の職員満足度調査を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		勉強会や外部研修に積極的に参加し、職員のレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		グループホーム連絡協議会の定例会や研修の参加し同業者との交流を図っている。同業者との情報交換を行うことでサービスの質が向上する努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	星町	
				実践状況	実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人や家族などに情報収集や要望を聞き、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族・本人に見学に来ていただき、不安や要望を聞き詳しく説明し、安心して生活できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャー(計画作成担当者を含む)との連携を図り、本人の為に何が必要かを考え、対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人が出来ること(洗濯物たたみ・台拭き・お膳拭き等)を職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に現状説明を行った上で家族の要望を聞き支援するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は居室にてゆっくり会話できるようにしている。また、家族面会時には外出し自宅にて過ごしたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者にあったテーブルの配置やレクリエーションなどで利用者同士の信頼関係が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	星町	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や併設の特養に移動された後も、面会等を行い、相談に応じたりと継続的な関係を保っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、一人ひとりの気持ちや希望どう過ごしたいかを聞き、本人の視点にたって意見を出し合い意向に添えるよう努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族、本人からの情報で、生活歴、病歴等を聴きこれまでの暮らしぶりを把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る力、わかる力を維持できるように支援し、言葉や表情などからいつもと違うことに気付くことが出来るように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族のアセスメントを行い、介護計画を作成している。サービス提供を行い短期目標を達成できたか、できなかったのか評価を行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や経過、情報などは記録されているが、気づきや工夫などは申し送りノートにて情報交換しケアに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の置かれている環境や本人の気持ちを考慮して、病院受診や買い物、温泉にお連れしたり、併設の各種行事や催し物に参加できるように取り組んでいる。			

宮崎県小林市 グループホームひなもり(星町)

自己	外部	項目	自己評価	星町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な防災訓練や各種行事の際に地域資源を活用し、利用者の生活の充実を図るとともに、防災訓練時における地域住民との協働を進めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的な受診と観察を行えるよう、利用者・ご家族の意向に合わせた、かかりつけ医との連携を図っている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃のバイタルチェックや状態観察、体調不良・事故発生時等の看護・主治医との連携を取り、安心感のある生活を送ってもらい、日常的に健康の維持が出来る体制を整えている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の的確な情報提供のために、日頃からの状態観察や記録の充実を図っている。職員の病院訪問や病院関係者へ電話連絡を行い、情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者本人・ご家族の意向について入所時にはもちろん、日頃からの聞き取りも行い、重度化、終末期の支援について、対応できる体制を整えている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自発的な研修への参加や事業所内での研修を定期的に行い、緊急事態発生時の問題解決能力や対応力の向上に努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯・夜間帯、それぞれを想定した災害時避難訓練を定期的に行い、広域消防隊員による講評や指導を仰ぎ、万が一の発生時に備えている。			

自己	外部	項目	自己評価	星町		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する職員の対応の仕方や自己覚知をはじめ、常日頃からの言葉遣いに思いやりと敬意を込め接している。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の視線の先にあるものや想いを感じる努力をし、その支援の一部になれるよう同目線での会話や姿勢を身につけている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間やスケジュールに縛られることなく毎日の生活を送れるよう、その一人ひとりのペースに合った声掛けや対応をすることが出来ている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みと希望に合わせ、散髪や理容の選択決定の支援をし、季節感のある衣類の選定をして頂ける機会の提供をしている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食を通しての充足感を重視し、味付け時の味見や準備を利用者と職員が行い、満足感の向上や役割の確認ができる様支援している。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事の提供ができるよう、管理栄養士による献立作成や利用者一人ひとりに合った食事形態での提供が出来ている。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ごとに一人ひとりに合った口腔ケアの声掛けや方法の選択を行い、誤嚥性肺炎や感染症などの予防に努め、健康の維持推進をしている。				

宮崎県小林市 グループホームひなもり(星町)

自己	外部	項目	自己評価	星町	
				実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導・パターンの確認を行い、リハパン・オムツ等からパンツへの移行に繋がる見直しや検討を定期的に行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな自然排便ができるよう、水分摂取量や運動の実施状況を確認し、個々にあった対応方法の検討・実施を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の意向のサインやタイミングを逃さないよう、随時の声掛けや準備をしておき、いつでも入浴が出来る環境を整えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンの把握や観察を行い、状況に合わせた安楽を保てる休息スペースの確保や誘導声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診時、状態変化による内服薬追加・変更時の内容の伝達・把握に努め、併せて薬剤情報提供書のファイリングをすることで、症状や体調の変化に合わせすぐに確認・理解ができるよう周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の味付け時の味見や洗濯物たたみ、園芸の手伝いをしていただき、利用者の能力や好みに合わせた役割の分担や意識の維持が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定例行事や私物の買い出し時等に職員の同行を行い、一人ひとりの個性や好みの把握に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	星町	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	平常時は事務所金庫にて預かりとしているが、定例行事時は個々人に金銭を渡し、支払いや管理をしてもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の家族への想いを傾聴し、希望時に随時電話が出来るよう支援している。 また、家族からの贈り物や郵便物が届いた際は、本人にお礼の電話ができる様に支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	挨拶時や会話の際に季節感の確認がして頂けるよう会話の中に取り込んでおり、中庭には季節の花々を植えている。 気候や時間帯に合わせた照度の設定や、温度設定をし、見当識の向上にも役立てている。月1回安全衛生委員による職場巡視を行っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがいつでも立ち止まり過ごせるよう、各箇所には休息スペースや複数人が集える場所の提供をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれにあった居室空間が持て、画一的にならないよう家具の配置・家族の写真や趣味のものを置ける様に工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には個人の名前や写真やレクリエーション時に作成していただいた工作なども掲示し、それぞれが目や足を止めて楽しめるよう取り組んでいる。また、外の風景や空気を感じながらゆったりと散歩や運動が行えるような作りとなっている。			